NHK 放送トップが謝罪文代読

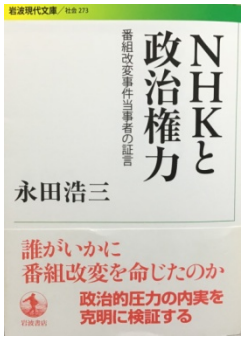
標題は毎日新聞 10 月 2 日朝刊。記事を読むと、NHK の体質が変わっていないこと、カバナンスに大きな問題があることがよくわかる。抜粋して紹介したい。

かんぽ生命保険の不正販売問題を追及した NHK 番組を巡り、日本郵政グループの要求を受けた NHK 経営委員会が昨年 10 月、同局の上田良一会長を厳重注意した問題で、木田幸紀・放送総局長が郵政側に出向き、番組幹部の発言について事実上謝罪する上田会長名の文書を渡していたことが判明した。放送部門の最高責任者である放送総局長が個別幹部に絡む抗議に直接対応するのは異例だ。

毎日新聞が入手した文書によると、木田氏は昨年 11 月 6 日、「会長の名代」として NHK 編成局幹部とともに元総務事務次官の鈴木康雄・日本郵政上級副社長を訪問した。不正販売問題を昨年 4 月に報じた「クローズアップ現代＋（プラス）」の番組幹部が郵政側に、会長は「(個別の）番組制作に関与しない」と発言したことについて「明らかに説明が不十分で誠に遺憾」と事実上謝罪する文書を読み上げ渡したという。

放送総局長の個別番組への対応を巡っては、旧日本軍の従軍慰安婦を扱った NHK の特集番組「ETV2001 シリーズ戦争をどう裁くか 問われる戦時性暴力」(01 年)の放送直前、放送総局長らが安倍晋三官房副長官（いずれも当時）に番組内容を説明し、内容が改変された。その問題について、放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送倫理検証委員会は 09 年、「自主自律の理念を揺るがし、視聴者からの疑惑を招く」と厳しく批判した。

改変が問題となった NHK 番組のチーフプロデューサーだった永田浩三・武蔵大教授の話　番組内容に関して指摘を受けたので放送部門から出向くのは苦渋の選択だったと思うが、最高責任者の総局長というのは異例だ。トップが頭を下げることで現場は萎縮する。他のメディアに先行して不正販売問題を取材していた現場の職員は、続編延期を含め悔しい思いをしたと思う ETV 問題では「編集の自主自律」が問われたが、その反省が生かされていない。



写真は永田浩三さんの『NHK と政治権力』。レポートで紹介したが、表紙カバー裏から―政権党の有力政治家と NHK 最高幹部が放送直前に接触し、慰安婦問題を扱った番組は著しく改変されてしまった。裁判の場でも争われ、多くの人びとの関心を集めた 2001 年の事件の真相について、担当プロデューサーが沈黙を破って全課程を明らかにした。放送現場での葛藤、政権党と癒着する NHK 幹部の施設を克明に記した本書は、NHK 番組改編事件を知る上で裁量の一冊である。

（2019 年 10 月 5 日）